

令和4年度 教育課程研究協議会 中学校 音楽科

配布資料

岐阜県教育委員会 令和4年7月

名前の欄には「地区番号」「学校名」「名字」

「管理職は先頭に○」「地区番号」「学校名」「名字」を入力願います。

地区番号(岐阜:1 西濃:2 美濃:3 可茂:4 東濃:5 飛騨:6)

(例)岐阜地区の学校の場合

- ・ 教諭の場合 …「1藪田小 田中」
- ・ 管理職の場合…「○1 藪田中 山田」

(例)西濃地区の学校で一台の端末を複数の者で利用する場合

- ・ 参加者のいずれも教諭の場合 …「2藪田小 小島、山田」
- ・ 参加者のいずれかに管理職がいる場合…「○2藪田小 小島、山田」

1 全体会

(1)総則に関わること

(2)資質・能力を身に付けるための音楽科の授業改善

①指導と評価の一体化

■協議会〔1〕 指導と評価の一体化について考える

②資質・能力を育成するための効果的なICTの活用

地区ごとのWeb会議に、再接続

■協議会〔2〕 ICTを活用した授業実践について

2 まとめ

音楽科で育成を目指す資質・能力

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

音楽科で育成を目指す資質・能力

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、**音楽的な見方・考え方を働かせ**、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること

【音楽科の学習】

幅広い活動を通して

音楽的な見方・考え方を働かせた学習をすることを前提

実感を伴った理解による「知識」の習得

必要性の実感を伴う「技能」の習得

質の高い「思考力、判断力、表現力等」の育成

人生や社会において学びを生かそうとする意識をもった
「学びに向かう力、人間性等」の涵養 の実現

Q5:「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行うには、具体的にどのようなことをすればよいですか。

深い学びの実現を図るために

【指導の工夫】

児童生徒が、学習の過程において、音楽的な見方・考え方を働かせることができるよう、指導を工夫することが大切

■児童生徒が自ら、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けているとき、音楽的な見方・考え方が働いていると考えられる。

平成 29 年改訂の小・中学校学習指導要領に関する Q&A <音楽に関すること> より

→ **音楽的な見方・考え方を働かせることができるような場面設定や発問など、効果的な指導の手立てを講ずる必要がある。**

(学習指導要領解説(平成29年度告示)音楽編p93)

Q5:「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行うには、具体的にどのようなことをすればよいですか。

対話的な学習の実現を図るために

【指導の工夫】

児童生徒が、他者との対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりすることができるよう、指導を工夫することが大切

【例】

■「○○な雰囲気を出すために、○○のように表現したらどうだろう」などの自分の考えをもてるようにし、その考えについて他者と対話し、その内容を、音楽活動(歌う、楽器を演奏する、つくる、聴く)を通して、**実際の音や音楽で確認しながら検討し合う場面を位置付ける。**



音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付ける
言葉と音や音楽の往還

平成 29 年改訂の小・中学校学習指導要領に関する Q&A <音楽に関すること> より

Q5:「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行うには、具体的にどのようなことをすればよいですか。

主体的な学習の実現を図るために

【指導の工夫】

児童生徒が、学習の見通しをもったり、学習したことを振り返って、学んだことや自分の変容を自覚したりできるようにして、次の学びにつなげることができるように指導を工夫

【例】

■主としてどの「音楽を形づくっている要素の働き」に着目して、その曲をどのように音楽で表すか、その音楽のよさや面白さ、美しさなどを見いだしていくかなどについて見通しをもつこと

■音楽表現のよさなどが、主としてどの「音楽を形づくっている要素の働き」によって生みだされたのかなどについて明確にしたりすることのできる場面を位置付けること

平成 29 年改訂の小・中学校学習指導要領に関する Q&A <音楽に関すること> より

音楽科で育成を目指す資質・能力

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

資質・能力と三つの柱と評価の観点

何ができるようになるか

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

何が身に付いたか 評価の観点

(1)	(2)	(3)
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

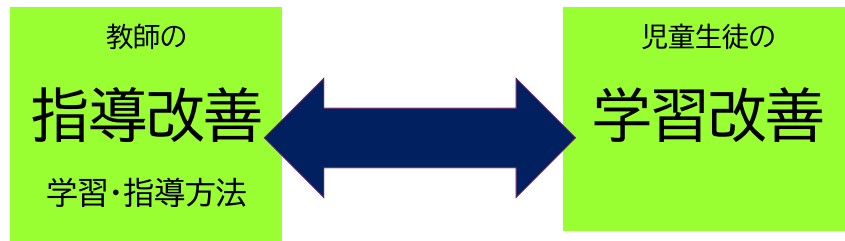
2 学習評価の充実

(1)指導の評価と改善(第1章第3の2の(1))

生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力に生かすようにすること。

学習の成果を的確に捉え

- ① 教師が指導の改善を図る
- ② 生徒が学習を振り返り、
次の学習に向かうことができようにする



指導と評価の一体化に向けて

内容のまとめりごとの評価規準の考え方等を踏まえて…

【1】 領域や分野の設定、指導事項の選択

14

【1】領域や分野の設定、指導事項の選択

	知識	技能	思考・判断・表現
歌唱	イ (ア)(イ)	ウ (ア)(イ)	ア
器楽	イ (ア)(イ)	ウ (ア)(イ)	ア
創作	イ (ア)(イ)	ウ	ア
鑑賞	イ (ア)(イ)(ウ)		ア (ア)(イ)(ウ)

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編 p140・141参照

15

評価規準

観点別学習状況の評価を的確に行うため、
学習指導要領に示す目標の**実現の状況を判断するよりどころ**を表現したものである。

【改善等通知 別紙4 音楽(1) 評価の観点及びその趣旨 <中学校 音楽>】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。(※1) ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。(※2) 	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(改善等通知 別紙4 P.14)

【1】領域や分野の設定、指導事項の選択

知識

知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。(※1) ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。(※2)

例) 中学校第2学年及び第3学年A表現(1)歌唱

イ 次のア及びイについて理解すること。

- ア 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり
イ 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり



【評価規準(例)】

「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。

18

【1】領域や分野の設定、指導事項の選択

技能

知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。(※1) ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。(※2)

例) 中学校第2学年及び第3学年A表現(1)歌唱

ウ 次のア及びイの技能を身に付けること。

- ア 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
イ 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能



【評価規準(例)】創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。

19

【1】領域や分野の設定、指導事項の選択

学びの姿を具体的にえがく

20